

鳥取に「未来を“つくる”美術館」が生まれます！

いろんな「つくる」で、「とっとりのアート」の過去・現在そして未来をつむぐ美術館をつくりましょう！

人を「つくる」

- 「みる人」をつくる
多くの人が訪れるための工夫
ex) 魅力的な企画展示 など
- 「つくる人」をつくる
さまざまな創作者の支援・育成
ex) 子どもや県民の美術創作の支援 など
- 「未来の才能」をつくる
「美術を通じた学び」の支援
ex) 小学3年生または4年生の全員招待
- 「居場所」をつくる
心地よい時間を過ごせる環境づくり
ex) サードプレイスにもなる、心地よい美術館

まちを「つくる」

- 周辺施設とまちをつくる
周辺施設との連携
ex) 倉吉パークスクエアと一体になったイベントの開催
・図書館との連携など
- 地域とまちをつくる
地域の魅力の発掘
ex) 白壁土蔵群などとの連携
・ポップカルチャー資源の活用など
- 他館とまちをつくる
県内外の美術館との連携
ex) 県内の美術館と連携した広域的展開
・県外との交流など

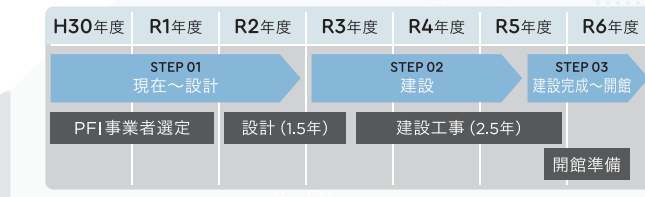
県民が「つくる」

- 県民が誇れる美術館
訪れた誰もが楽しめるための工夫
ex) 県民が誇りに思える美術館
・みんなが楽しめるオープンな美術館
- 県民が参加できる美術館づくり
県民とともに支え、育てる環境づくり
ex) つくるプロセスをオープンに
・県民が美術館づくりへ参加できる仕組みづくりなど
- 展示・収藏品とともに成長していく美術館
収藏品の増加と研究の活性化
ex) 収藏品を増やし成長する美術館
・収藏品とともに研究を深める美術館

新しい美術館、ここが気になる！

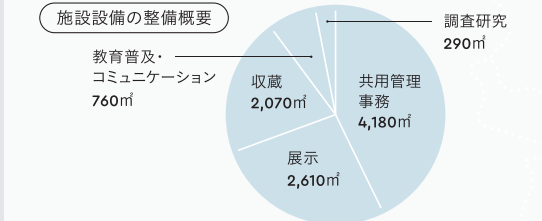


いつできるの？
2024年度に開館する予定です
ただいま設計・建設・維持管理・運営を一括で担うPFI事業者の選定中。来年度から1年半で設計、2年半で建設工事を行う予定です。県民一丸となって美術館づくりに参加できるよう、開館に向けて、さまざまな企画を構想しています！



どこにできるの？
県のどまんなか、倉吉市にできます
建設地は鳥取県の中心に位置する倉吉市に決定。建設予定地は、倉吉パークスクエアとなりの倉吉市営ラグビー場です。鳥取で広く文化の振興を行ってきた倉吉未来中心、長く県民に親しまれてきた国指定史跡・大御堂廃寺跡に隣接する立地で、鳥取県創生の新たな拠点を目指します。

どうやってつっていくの？
美術館の整備、運営はPFIで行います
PFIとは、公共施設の建築、管理、運営などに民間のノウハウや資金を用い、サービスを民間主導で行う仕組みです。「県民がつくる美術館」をコンセプトのひとつに掲げ、事業者選定の過程においても県民が参画できるよう、県民参加型公開プレゼンテーションを行います(令和2年1月)。
※主に学芸員が担う業務(美術品の収集、保存、調査研究、展示、教育普及など)は、引き続き県業務として実施します。



今号の運び人 passer

舞台は 鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124



開館に向けて鳥取各地を白い箱が旅します



鳥取県立博物館
美術振興課のみなさん
(左から)
教育普及担当専門員
山本亮
学芸員
山田修平
主幹学芸員
三浦努
副館長兼美術振興課長
尾崎信一郎
学芸員
友岡真秀
教育普及担当専門員
佐藤真菜

Q 鳥取県立美術館、どんな場所にしたい？

A 肩ひじを張る必要なく、いつでもぶらっと訪れて、作品を見ながらぼんやり過ごすことができる場所。(尾浦)

●来館した人のなかに「アートって何だろう」という問いかけが自然と生じるような場所にしたいです。(三浦)

●子どもも大人も、いろいろなアートに出会って、時にはみんなでワイワイ、時にはひとりでもしんとできる場所にしたいです。(佐藤)

●絵師たちの思いと、作品を守り伝えた人々の思いが生み出した因伯の芸術文化を、この地で生きる人々に誇りに思ってもらえるような場所にしたいです。(山田)

●「あ、美術館行こうか」というように、暮らしのなかに溶け込む美術館。そして、作品や制作の様子を目にしなが、みんなが集えるような場所になったらと思います。(友岡)

●多様な価値と出会える場所にしたいです。楽しみ、癒され、時に考えさせられたり感情が揺さぶられたりする、そんな場ってのが、いいですね。(山本)

Passer's Recommend

1 当館美術コレクション
洋画や日本画、彫刻、工芸、版画、写真など、作品・資料合わせて、およそ1万点を所蔵しています！
▲前田寛治《棟梁の家族》1928年 カンヴァス・油彩

2 多様なワークショップ
特に子どもたちのダイナミックなワークショップは、その様子や作品を見るだけでもパワーが伝わります！

3 鳥取城跡
城跡からの眺めはすばらしく、四季折々の表情が楽しめます。美術のみんなでランチミーティングしたことも！

県博 NEWS & TOPICS

01 生誕100年 國領経郎展 - 静寂なる砂の景 -



砂丘や砂浜を舞台とした絵画作品で知られる國領経郎。本展は、國領の出身地・横浜市の横浜美術館と、鳥取県立博物館、酒田市美術館が所蔵する國領作品を中心に構成する回顧展です。
会期 2020年1月25日(土)-2月25日(火)
会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般800円(20名様以上の団体は600円)
◀ 國領経郎《遠い海》1977年 当館蔵

02 美術家大辞典 鳥取県立博物館版



本年度から2年間続くコレクション展企画。美術館の建設準備が進む今、その母体となる当館のコレクションに含まれるすべての美術作品の作者を、「辞典」のように50音順で紹介いたします。
会期 年度末まで開催
会場 鳥取県立博物館 美術常設展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般180円

美術館を一緒に作りましょう！
MEMBER WANTED

美術館ができるまでを考えるワークショップやフリーペーパー制作に関わる仲間を募集しています。美術館ができるまでの待ち遠しい時間を、みんなで楽しみながら過ごしませんか？

お問い合わせ
鳥取県立博物館 美術振興課
Tel: 0857-26-8045
Fax: 0857-26-8041



鳥取県立博物館から、
新たな美術館
づくりへの旅が
はじまりました！

2024年度、鳥取県・倉吉に「未来を“つくる”美術館」が生まれます！

「Pass me!」は2024年度開館予定の鳥取県立美術館ができるまでを発信するフリーペーパーです。県民一人ひとりがプレイヤーとなって、さまざまな人へと「Pass」しながら、ともに鳥取県立美術館をつくっていく足跡を伝えます。
発行日: 2019年12月1日 発行元: 鳥取県立博物館 編集ディレクション: 多田智美 (MUESUM) 編集: 妹尾実津季 (MUESUM)、水田美世 アートディレクション&デザイン: 三宅航太郎・森本歩美 (うかぶLLC) 表紙・今号の運び人撮影: 藤田和俊

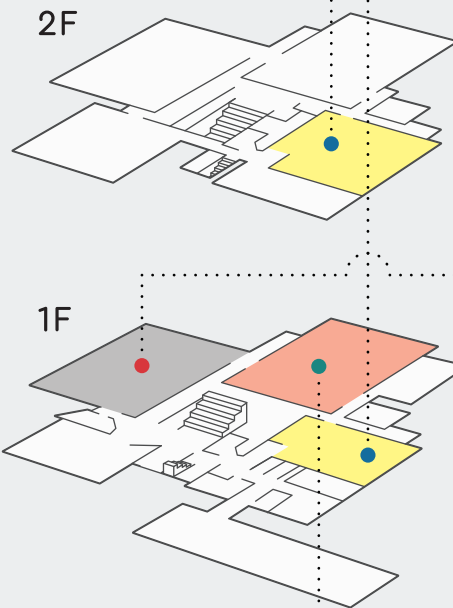
HISTORY OF MUSEUM

まずは、鳥取県立博物館ってどんなところ？

1972

鳥取県立博物館開館

鳥取県民の教育・文化の発展に寄与するため、1972年、久松山下鳥取城跡内に誕生しました。鳥取県の「自然」、「歴史・民俗」、「美術」の3つの分野を紹介する博物館として親しまれています。



田中規靖さん(館長)

人類は、地球上の生物のなかで、唯一、生物や人類の記憶や感情を今に伝え、未来につなげる能力を持つ存在です。その記憶や感情を言葉や描写に転換した"もの"を通して、今を生きる我々に追体験をさせてくれる場が博物館・美術館ではないでしょうか。特に、これからの未来を創造して子どもたちに、過去を学び、明るい未来をつくり出していくための新たな知恵を涵養してもらうためにも、博物館・美術館は大いなる努力をしていきたいと考えています。

美術部門

鳥取藩ゆかりの絵画や、鳥取県の近現代美術など郷土との関連の深い美術作品を中心に収集、研究し、紹介。年間3~4回の企画展では、幅広く国内外の美術も展示しています。



開館以来、さまざまな普及事業を行うなか、1999年頃から県民とともに運営する活動がはじまります。

自然部門

鳥取県の大地のなりたちから、鳥取砂丘や大山の生きもの、オオサンショウウオをはじめとする貴重な生きものまで、多様な自然のすがたを研究し、紹介しています。



歴史・民俗部門

旧石器時代から明治時代までの、鳥取県の歴史や人々の暮らしと、今も継続して行われている祭りや伝統行事などについて研究し、紹介しています。



1999

鳥取県出身の大学生からの提言

地元出身者を含む大学生4人が、「美的感性を養う場所は、美術館の外にもあるのではないかと鳥取県に対して提言。それを機に大学生とともに新たな取り組みがはじまりました。

水田美世さん(totto編集長)

心揺さぶられる物事や置かれた環境、日々の生活を抜きに美術館はつくりえない。そう考えた私たちの意見書は、その後ツアー型ワークショップのアイデアに。爽やかな秋空のもと、尾崎翠の『新秋果集』を読んだり、二十世紀梨を頬張ったりしました。



三浦努さん(主幹学芸員) 美術や建築を学ぶ若い学生たちのプレゼンはとても新鮮でした。その発想やアイデアは後に生かされていくこととなります。

2000

美術館を考える365日展

「博物館の美術コレクションを、県民はどれだけ知っているのだろうか?」との問いかけから、1年間かけて県内各所のさまざまな施設を巡り、ほぼすべてのコレクションの展示を行いました。

根鈴輝雄さん(倉吉博物館館長)

県内のさまざまな会場で、県博の美術コレクションをまとめて紹介する。当時としては画期的な取り組みでした。多様なコレクションに触れるとともに、開催地域にゆかりのある作家や作品で展示構成され、改めて郷土の優れた作家を知る良い機会となりました。

アート・フィールド・ウォーキング



1999年の大学生からの提言を受け、県内のさまざまな場所に出かけ、その土地の風土や文化遺産を訪ねる企画を実施。バスツアー「とっとり美術県を訪ねて」、次いで美術家の大久保英治さんと江戸後期の木喰上人の足跡をたどる「歩くワークショップ」を開催しました。



城市索さん(歩くワークショップ参加者) 暑いなかでの歩行でしたが、とても楽しかったです。自然豊かな場所で行う創作ワークショップは新鮮でした!

2001

実験的普及事業開始

鳥取県がこれまで収集してきたコレクションをもっと県民の近くへ、という想いから、さまざまな実験的普及事業がはじまりました。

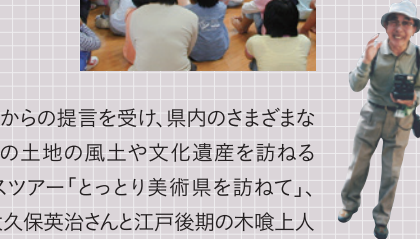


三浦努さん(主幹学芸員) 県民のみなさんがアーティストの発想力、創造力というものに直接触れる機会をつくることは大事だと感じました。

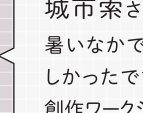
出張美術教室

「アートスクールがやってくる」

博物館の収蔵庫で眠っている作品を、博物館から離れた学校へ持ち出し、対話型鑑賞を行う取り組み。現在も「コレクション宅配便」と名称を変えて、開催されています。



佐藤真菜さん(教育普及担当) 「土曜日に博物館に来館すると、必ずアートにまつわる何かのイベントと出会う。」そんなコンセプトではじまりました。開催場所を館外へも広げ10年以上続いています。



2003

アーティストによるワークショップシリーズがはじまる

「県博を、より充実した美術体験ができる環境に」という発想で、さまざまなジャンルのアーティストを講師に迎え、館内の各所でワークショップを行う企画「つくりあそびズム!」を開始。その後「スペシャルワークショップ」へと移行し、現在も開催し続けています。

2008

「毎週土曜はアートの日!」はじまる

学校週5日制の開始にともない、土曜日に美術部門の教育普及プログラムを集中させる取組み。ワークショップや講演会などを開催しています。



佐藤真菜さん(教育普及担当) 「土曜日に博物館に来館すると、必ずアートにまつわる何かのイベントと出会う。」そんなコンセプトではじまりました。開催場所を館外へも広げ10年以上続いています。



2017

鳥取県立美術館基本構想を策定

13回の検討委員会を経て、コンセプトや建設費、建設地などを取り決めた基本構想を策定しました。

コレクション宅配便

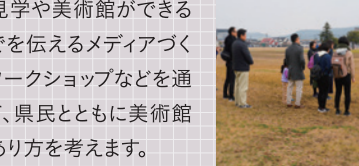
「出張美術教室」(2001年)の流れをくむ企画。県内の学校をはじめ、公民館やレストランなどに博物館のコレクションを持ち出し、対話型鑑賞などを行っています。

山本亮さん(教育普及担当)

本県ゆかりの作家たちの作品や学芸スタッフとの出会いを通じて、美術館への関心と親近感をより深くもっていただけたら嬉しいです。

アートの種まきプロジェクト

美術館開館にむけた、継続型のプログラム。敷地の見学や美術館ができるまでを伝えるメディアづくりワークショップなどを通して、県民とともに美術館のあり方を考えます。



美術館開館にむけた事業を展開

2024年度美術館開館にむけて、機運醸成のためのさまざまなワークショップや展覧会などはじめました。

ミュージアム・サロン

鳥取で活動するクリエイターなどをゲストに招いて、地域における文化活動のあり方や未来の美術館について語り合っています。



ここから開館にむけて、みんなが美術館をつくる新たな歴史がはじまります!

2018

基本計画を策定

専門家や地域団体、県議会の意見を踏まえて、美術館の整備・運営手法などの考え方を整理し、「鳥取県立美術館整備基本計画」を策定しました。

尾崎信一郎さん(副館長)

美術館の基本計画策定にあたっては、地域の方々、ほかの美術館の学芸員など、なるべく多くの人の意見を聞き、検討の過程を可能な限り公開しました。今後に向けて、ひとつのモデルになったと思います。

基本計画はこちらからダウンロードできます

